

豊彦の妻にスポット

神戸出身の社会運動家賀川豊彦(1888～1960年)の業績を伝える賀川記念館(神戸市中央区吾妻町5)で、豊彦の妻ハル(1888～1982年)に光を当てた特別

賀川記念館

ハルさん没後30年企画展

神戸

没後30年を機に、同館が命日(5月5日)に合わせて企画。豊彦の研究は多いが、ハルに関する研究は珍しいという。

ハルは聖書印刷会社の神戸工場で働いていた23歳の時、管美歌の指導に訪れた豊彦と出会い、2年後に結婚。スラム街に住み、貧しい人々や失業者を救う活動に励んだ。

その傍ら工員時代の経験を原点に、主婦や働く女性の地位を向上させるため婦人会を組織し、労働運動にも取り組んだ。

企画展初日の5日には、館の「語り部」として活動する市民17人が4班に分かれ、ハルに関する研究成果を発表。

豊彦と志を同じくする「同労者」、多くの著作を残した文化人、豊彦の公私にわたる「金庫番」としての横顔に迫った。「女性として幸せだったか」との観点で研究した班は「豊

31日まで 女性の地位向上に尽力

企画展が開かれている。豊彦と二人三脚で歩み、女性の地位向上にも努めたハルの活動や人柄を、書物や映像で紹介している。31日まで。(山岸洋介)

彦と苦勞を分かち、深い信頼で結ばれていた。新しい女性の生き方、幸福を体現した人と述べた。

会場では、各班の発表内容 078・221・3627 円(学生100円)。同館



賀川豊彦の妻ハルに焦点を当てた展示「賀川記念館」